

各関係機関団体の長 } 殿  
各病虫害防除員 }

福岡県病虫害防除所長

平成24年度病虫害発生予報第1号（4月）について

このことについて、病虫害発生予報第1号を発表したので送付します。

## 予報第1号

4月における主な病虫害の発生動向は、次のように予想されます。

## 主な病虫害の発生予報概要

作物名	病虫害名	発生量 (現況)	発生量 (4月の発生予報)	
		平年比	平年比	前年比
麦類	赤かび病	—	並	並
かき	フジコナカイガラムシ	—	並	並
イチゴ	うどんこ病	やや少	やや少	並
	ハダニ類	やや多	やや多	やや多
ナス	すすかび病	やや多	やや多	多
	ミナミキイロアザミウマ	並	並	やや少
トマト	灰色かび病	並	並	やや多
キュウリ	べと病	やや少	やや少	やや少
	うどんこ病	並	並	やや少
茶	カンザワハダニ	やや少	やや少	並

\* 茶の発生量(現況)は裾葉の発生量

## &lt;予想される向こう1か月の天候（平成24年3月24日～平成24年4月23日）&gt;

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、平年並か低いでしょう。降水量は平年並か少なく、日照時間は多いでしょう。

週別の気温は、1週目は低く、2週目以降は平年並でしょう。

## 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

要素	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	40	40	20
降水量	40	40	20
日照時間	20	30	50

(福岡管区气象台 平成24年3月23日発表抜粋)

## 作物別発生予報

注①：この予報は病害虫防除所の現地調査結果に基づき、情報作成会議を経て作成しています。

注②：予報の根拠の末尾の（ ）書きは、（+）は発生を助長する要因、（-）は発生を抑制する要因、（±）は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示します。

### 【普通作物：麦類】

#### 1 赤かび病

##### (1) 予報の内容

発生時期：平年より遅い

発生量：平年・前年並

##### (2) 予報の根拠

ア 向こう1か月の気象予報では、降水量は平年並か少なく（-）、開花期に当たる4月中～下旬の気温は平年並（±）の見込みである。

イ 農業総合試験場の調査によると、今後、気温が平年並で経過した場合、出穂期は小麦、大麦ともに平年より5～6日程度遅く前年並で、4月13～16日頃と予想されている（平成24年3月21日付福岡県米麦大豆生育情報参照）。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 本病菌の主要感染時期は、開花期から開花期10日後頃である。

この時期に曇天、降雨が続く暖かい場合（気温20℃以上）は、多発する可能性が高い。

イ 防除適期は以下のとおり

・小麦では、開花期（出穂期後7～10日頃）～開花最盛期である。

適期防除を実施後、降雨が続く場合はその7～10日後に、2回目の防除を行う。

・二条大麦では、穂揃期後約10日頃（出穂期後12～14日、蒴殻が抽出し始める頃）である。

この時期は収穫前30日頃となるため、薬剤の選定に当たっては、収穫前規制に留意する。

・裸麦では、穂揃期（出穂期後2～4日）である。

適期防除を実施後、降雨が続く場合はその7～10日後に、2回目の防除を行う。

ウ 出穂期は、播種日、品種及び今後の気温の変動等により、ほ場ごとに異なるので、ほ場をよく観察して適期に防除を行う。

エ 降雨の合間に薬剤防除を行う場合、液剤は散布後一旦乾けば、降雨があっても薬剤の効果は認められる。

粉剤は散布後6時間以内に降雨があった場合、薬剤の効果が低下するため、天候に留意して散布する。

オ 防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守するとともに、周辺圃場への飛散防止対策を講ずる。

薬剤によっては、小麦、大麦で農薬使用基準が異なる場合があるので注意する。

### 【果樹：かき】

#### 1 フジコナカイガラムシ

##### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

##### (2) 予報の根拠

ア 平成23年10月2半旬調査では、発生量は平年並であった（±）。

寄生果率 10.9%（平年 18.7%、平成22年 10.8%）

発生ほ場率 76.9%（平年 90.9%、平成22年 84.6%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされている（±）。

##### (3) 防除上の注意

ア 越冬幼虫の新梢への移動時期（4月下旬頃）から、薬剤防除を徹底する。

イ 防除薬剤は天敵に対して、悪影響が少ないIGR系殺虫剤を活用する。

## 【果樹：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (4月の発生予想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
かんきつ そうか病	やや少	やや少	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>発芽直後～展葉期の薬剤防除を徹底し、初期発病を抑える。</li> <li>罹病葉は伝染源になるので除去する。</li> <li>薬剤防除は発芽前・開花前の雨前予防散布が重要である。</li> <li>薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤の連用は避ける。</li> </ul>
かいよう病	やや少	やや少	並	
ミカンハダニ	やや少	やや少	並	
ぶどう 黒とう病	—	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>頂芽の展葉2～3枚期の薬剤防除を徹底し、初期発病を抑える。</li> <li>罹病枝や巻きひげは除去する。</li> </ul>
かき 炭疽病	—	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>新梢の伸長始めから硬化前まで感染するので、罹病枝の除去と栽培管理を徹底する。</li> <li>薬剤防除は、天気予報の最高気温と最低気温の和が40℃以上で、降雨が予想される日の直前から開始する。</li> </ul>
なし 黒星病	—	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬剤防除は、開花直前から満開20日後が最も重要な時期である。</li> </ul>

\*ぶどう、なし、かきの発生量（予想）は、平成23年の調査結果及び気象予報から予想。

## 【野菜：冬春イチゴ】

### 1 うどんこ病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年並

#### (2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった（－）。

発病株率 0.1%（平年 0.7%、前年 0.1%）

発病果率 0%（平年 0.1%、前年 0%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされている（±）。

#### (3) 防除上の注意

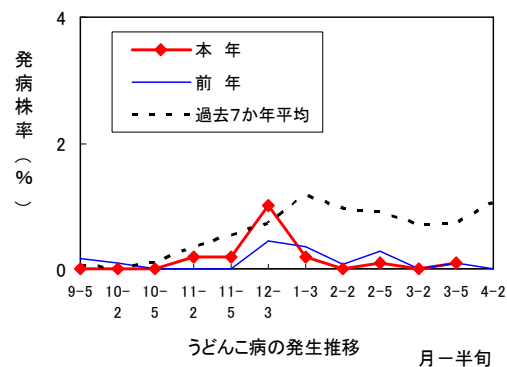
ア 罹病葉、罹病果は見つけ次第処分する。

イ 下葉かぎ後、薬剤が葉裏にもかかるよう丁寧に散布する。

ウハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。

エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

オ 栽培が終了したら、罹病株は直ちに、ほ場外に持ち出し処分する。



## 2 ハダニ類

### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

### (2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった(+)。

寄生株率 22.0% (平年 15.7%、前年 15.4%)

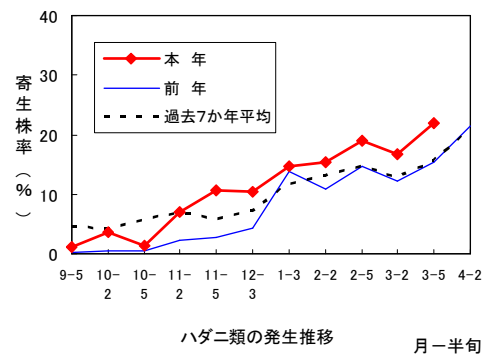
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされている(-)。

### (3) 防除上の注意

ア 防除は摘葉後に行い、薬剤が葉裏にも十分にかかるよう散布する。

イ 摘葉や除草した雑草は、ほ場内に放置せず、ビニル袋等に入れ密閉して処分する。

ウ カブリダニ類を放飼しているほ場では、天敵への影響が少ない薬剤を散布する。



## 【野菜：冬春ナス】

### 1 すすかび病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多、前年より多

#### (2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった(+)。

発病葉率 28.2% (平年 20.2%、前年 13.3%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされている(-)。

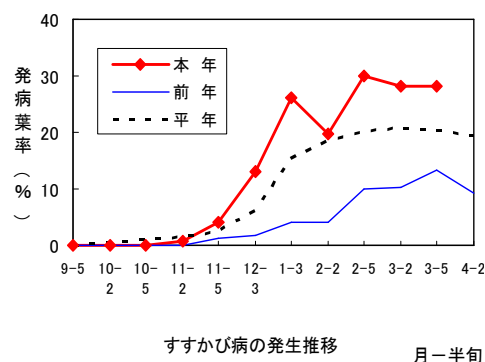
#### (3) 防除上の注意

ア 着果負担等で、樹勢が低下すると発生が多くなるので注意する。

イ 病勢が進展してからでは防除が困難であるため、発病初期のうちに防除を徹底する。

ウ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



## 2 ミナミキイロアザミウマ

### (1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや少

### (2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

寄生葉率 6.1% (平年 6.5%、前年 10.8%)

被害果率 0.3% (平年 0.5%、前年 0.4%)

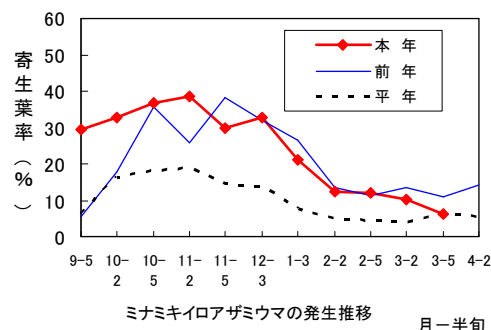
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされている(-)。

### (3) 防除上の注意

ア 葉裏の寄生が多いので、薬剤が葉裏にもかかるよう丁寧に散布する。多発している場合は、約1週間後に再度薬剤散布を行う。

イ ほ場内外の雑草を除去し、害虫の生息・増殖源を絶つ。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



## 【野菜：冬春トマト】

### 1 灰色かび病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多

#### (2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病果率 0.5% (平年 0.6%、前年 0.5%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされている(ー)。

#### (3) 防除上の注意

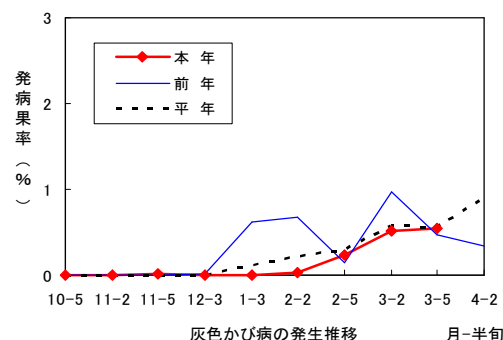
ア 罹病葉、葉先枯れ、罹病果は見つけ次第処分する。

イ ハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。

ウ 開花後の萎れた花卉は、伝染源となるので取り除く。

エ 農薬の散布は晴天の日中に行い、十分に換気して夕方密閉するまでに、薬液が乾くようにする。

オ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



## 【野菜：冬春キュウリ】

### 1 べと病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少

#### (2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった(ー)。

発病葉率 3.6% (平年 9.1%、前年 3.3%)

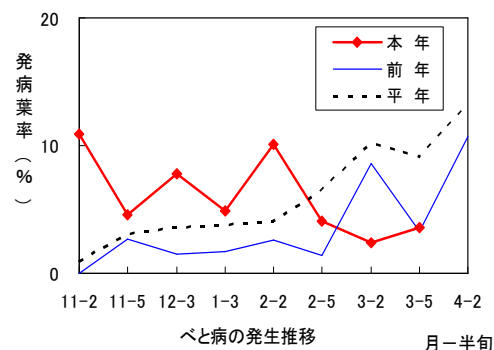
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされている(ー)。

#### (3) 防除上の注意

ア 草勢が低下すると発病が助長されるので、適正な肥培管理を行う。

イ ハウスの換気を行い、多湿にならないよう管理する。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



### 2 うどんこ病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや少

#### (2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病葉率 2.0% (平年 1.3%、前年 2.0%)

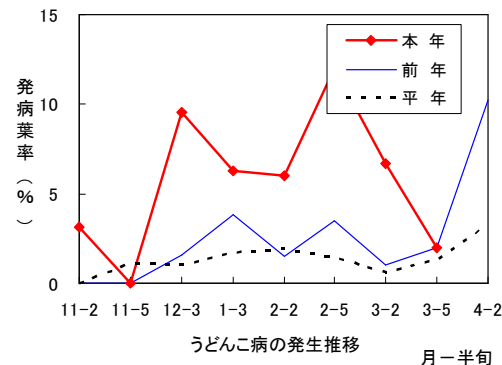
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされている(±)。

#### (3) 防除上の注意

ア 罹病葉は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。

イ ハウスの換気を行い、多湿にならないよう管理する。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



## 【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (4月の発生予想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
イチゴ 灰色かび病	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>罹病果は見つけ次第除去する。</li> <li>また、下葉かぎを随時行い、株間の通風を図って湿度を低下させる。</li> <li>ほ場周辺の雑草の除去を徹底する。</li> </ul>
アザミウマ類	並	並	並	
ナス 灰色かび病 コナジラミ類	やや少 やや少	やや少 やや少	並 並	<ul style="list-style-type: none"> <li>罹病葉や罹病果実は見つけ次第除去し、ほ場外で処分する。</li> </ul>
トマト 葉かび病	少	少	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>抵抗性品種を栽培しているほ場でも発生しているため、すすかび病の防除も兼ねて、予防散布を行う。</li> <li>本種は、トマト黄化葉巻病(TYLCV)の媒介虫なので、発病株は早期に抜き取り、ほ場外へ持ち出すとともに、本種の防除を徹底する。</li> </ul>
コナジラミ類	並	並	並	
キュウリ 灰色かび病	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>開花後の萎れた花卉に、灰色のかびを認めたら防除を開始する。</li> <li>本種は、キュウリ黄化えそ病(MYSV)の媒介虫なので、発病株は早期に抜き取り、ほ場外へ持ち出すとともに、本種の防除を徹底する。</li> <li>本種は、キュウリ退緑黄化病(CCYV)の媒介虫なので、発病株は早期に抜き取り、ほ場外へ持ち出すとともに、本種の防除を徹底する。</li> </ul>
褐斑病	少	少	並	
ミナミキイロ	やや少	やや少	並	
アザミウマ コナジラミ類	並	並	並	

## 【茶】

### 1 カンザワハダニ

#### (1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年並

#### (2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった(一)。

寄生葉率 1.8%(平年 2.8%、前年 2%)

50葉当たり虫数 2.3頭(平年 2.6頭、前年 1.6頭)

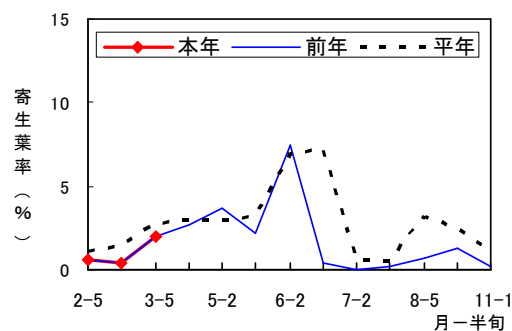
発生ほ場率 35.3%(平年 49.6%、前年 55.6%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か少ないとされている(一)。

#### (3) 防除上の注意

ア ほ場をよく観察し、寄生葉率が2%以上の茶園では、農薬使用基準を遵守し防除を行う。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



カンザワハダニの発生推移

# 農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、安全使用講習会の開催や啓発チラシの配布等を関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・河川等への配慮について、ご指導をお願いします。

## 1 農薬適正使用の徹底

○適用作物、使用量や濃度、使用時期、総使用回数などが記載されたラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。

(例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

## 2 飛散防止対策の徹底

○風の弱い時に散布する。

○風向、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

○飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

○散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

## 3 保護具の着用

○農薬の散布時には、ラベルの注意・警告マークをよく確認し、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用する。

## 4 農薬の散布後は、必ず散布器具を洗浄

○噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

## 5 防除履歴の記帳

○農薬の散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳する。

## 6 空容器の処分

○空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。

また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>  
電子メール [kfok0301@sp.jppn.ne.jp](mailto:kfok0301@sp.jppn.ne.jp)